



2023 July

データでみる同大生の

2022年度 就職状況

2022年度の就職率は98.8%(学部・研究科合計)となり、コロナ禍による採用意欲の停滞からの反動で、回復傾向が見られました。多くの企業では、競争が一層激化する環境下で、将来のコアとなる人材を確保しようとする厳選採用の姿勢が堅持され、採用基準を緩和せずに、採用予定人数を充足しないまま採用活動を終了する企業もありました。一方、一部の学生に内定が集中した結果、内定辞退が想定以上に発生するなど、採用予定人数を確保できず、夏以降も採用活動を継続するケースも多く、企業の動きは一層多様化しました。このような状況から、これまで以上に、変化に柔軟に対応し、自ら考え行動できる自立した学生が求められています。皆さん自身が納得できるキャリアを形成するためには、勉強やサークルなど、今できることに本気で取り組み、充実した大学生活を過ごし、インターンシップやキャリアセンターのプログラムを通じて社会の動向や働くことへの理解を深め、早い段階から将来の進路を考えていくことが大切です。

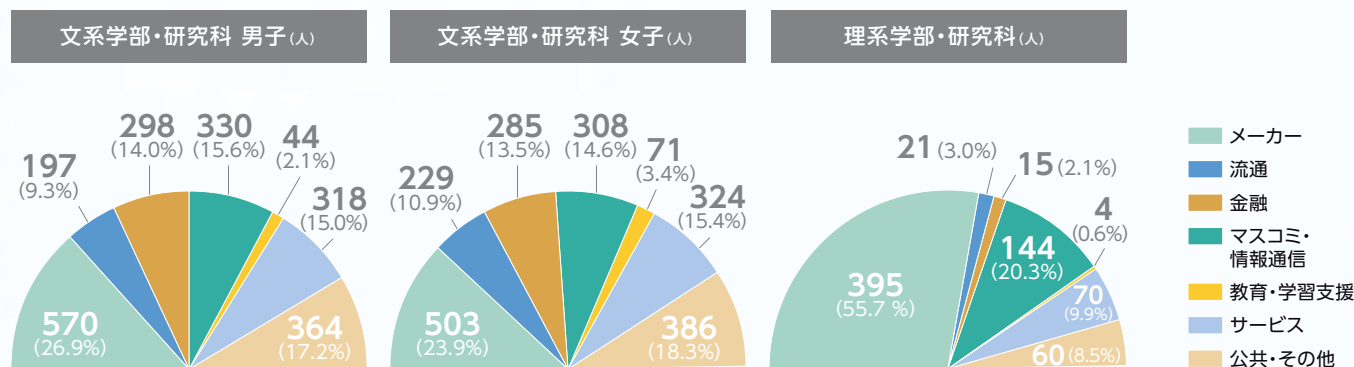
■ 就職者数上位30位 会社名と人数

文系			理系		
国家公務員(一般職)	63	京都府	14	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	17
東京海上日動火災保険株式会社	43	大和証券株式会社	14	ダイキン工業株式会社	13
楽天グループ株式会社	33	富士通株式会社	14	富士通株式会社	13
三井住友信託銀行株式会社	31	みずほフィナンシャルグループ	14	京セラ株式会社	12
株式会社村田製作所	29	第一生命保険株式会社	13	トヨタ自動車株式会社	12
株式会社京都銀行	26	大和ハウス工業株式会社	13	株式会社日立製作所	9
株式会社ニトリ	21	パナソニック株式会社	13	株式会社クボタ	8
国税専門官	20	みずほ証券株式会社	13	株式会社村田製作所	8
住友生命保険相互会社	20	株式会社三井住友銀行	13	ローム株式会社	8
日本生命保険相互会社	20	大阪市	12	株式会社NTTドコモ	7
京都市	19	日本電気株式会社	12	株式会社小松製作所	7
京セラ株式会社	18	三菱電機株式会社	12	日本アイ・ビー・エム株式会社	7
株式会社キーエンス	15			本田技研工業株式会社	7
京都中央信用金庫	15			パナソニック株式会社	7
株式会社滋賀銀行	15			株式会社デンソー	6
積水ハウス株式会社	15			パナソニック インダストリー株式会社	6
株式会社リクルート	15			アクセンチュア株式会社	5
NECソリューションイノベータ株式会社	14			関西電力株式会社	5
				株式会社豊田自動織機	5
				西日本旅客鉄道株式会社	5
				株式会社野村総合研究所	5
				ヤフー株式会社	5
				AGC株式会社	4
				株式会社大林組	4
				川崎重工業株式会社	4
				キャノン株式会社	4
				シャープ株式会社	4
				株式会社島津製作所	4
				株式会社電通国際情報サービス	4
				日産自動車株式会社	4
				ニチコン株式会社	4
				北陸電力株式会社	4
				パナソニック エナジー株式会社	4
				三菱電機株式会社	4
				三菱重工業株式会社	4

※企業・団体名は2023年3月31日現在の名称を記載しています。

■ 業種別内定状況

※率(%)は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。



■ 2022年度 事業活動収支計算書 2022年4月1日から2023年3月31日まで
(単位:千円)



2023
July

教育活動収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		学生生徒等納付金	32,661,810	33,214,214	△ 552,404
		手数料	1,662,800	1,779,797	△ 116,997
		寄付金	313,080	478,828	△ 165,748
		経常費等補助金	3,753,800	3,723,704	30,096
		付随事業収入	956,020	1,036,130	△ 80,110
		雑収入	1,074,430	1,054,972	19,458
		繰出金(教育活動)	0	1,761	△ 1,761
		分担金	154,370	166,400	△ 12,030
		教育活動収入計	40,576,310	41,455,806	△ 879,496
教育活動外収支	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		人件費	21,477,900	21,428,717	49,183
		教育研究経費	16,198,380	16,316,311	△ 117,931
		管理経費	1,792,890	1,904,911	△ 112,021
		徴収不能額等	19,200	28,859	△ 9,659
		繰入金(教育活動)	0	12,198	△ 12,198
		教育活動支出計	39,488,370	39,690,996	△ 202,626
		教育活動収支差額	1,087,940	1,764,810	△ 676,870
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		受取利息・配当金	159,710	322,913	△ 163,203
		その他の教育活動外収入	440	0	440
		繰出金(その他)	5,600	5,133	467
		教育活動外収入計	165,750	328,046	△ 162,296
教育活動外収支	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		繰入金(その他)	0	1,038	△ 1,038
		教育活動外支出計	0	1,038	△ 1,038
		教育活動外収支差額	165,750	327,008	△ 161,258
		経常収支差額	1,253,690	2,091,818	△ 838,128

特別収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	240,000	364,191	△ 124,191
		繰出金(施設設備)	350,000	350,000	0
		特別収入計	590,000	714,191	△ 124,191
特別収支	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		資産処分差額	0	21,496	△ 21,496
		その他の特別支出	0	37,932	△ 37,932
		繰入金(施設設備)	0	0	0
		特別支出計	0	59,428	△ 59,428
		特別収支差額	590,000	654,763	△ 64,763
		予備費	260,000	260,000	0
		基本金組入前当年度収支差額	1,583,690	2,746,581	△ 1,162,891
		基本金組入額合計	△ 2,104,200	△ 1,996,100	△ 108,100
		当年度収支差額	△ 520,510	750,481	△ 1,270,991
		支出準備金取崩額	760,500	1,135,980	△ 375,480
		支出準備金繰入額	△ 563,450	△ 1,410,175	846,725
		基本金取崩額	346,690	1,776,483	△ 1,429,793
		調整後当年度収支差額	23,230	2,252,769	△ 2,229,539
		前年度繰越収支差額	△ 30,183,700	△ 30,183,696	△ 4
		翌年度繰越収支差額	△ 30,160,470	△ 27,930,927	△ 2,229,543

(参考)

事業活動収入計	41,332,060	42,498,043	△ 1,165,983
事業活動支出計	39,748,370	39,751,462	△ 3,092

2023年度

大学予算について

2023年度大学予算は、3月2日開催の予算委員会および大学評議会、3月25日開催の法人評議会、理事会で承認、決定されました。
主な事業は以下のとおりで、詳細な予算額については2023年度事業活動収支予算書のとおりです。

教育研究の充実
教室等マルチメディア環境整備
赤ちゃん学研究センターの共同利用・共同研究拠点化
Comm 5.0-AI・データサイエンス副専攻プログラム
社会連携推進と大学院生へのキャリア形成支援

学生生活支援の充実
キャリア支援に関するオンラインブース設置
学生相談AIチャットボット運用
体育会向けコンプライアンス講習会実施

企画広報・管理運営
Webサイトリニューアル
教務システム改修
同志社大学ポータル改修(安否確認システム)
学費収納方法多角化(クレジットカード等導入)対応

建設事業
寧静館・新創館改築等工事
京田辺キャンパス教室等改修工事
今出川新図書館改築等工事
スポーツ・コンプレックス事業
京田辺キャンパス体育施設整備

■ 2023年度 事業活動収支予算書 2023年4月1日から2024年3月31日まで
(単位:千円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科目	予算	前年度予算	増減
		学生生徒等納付金	32,454,690	32,661,810	△ 207,120
		手数料	1,662,800	1,662,800	0
		寄付金	310,800	313,080	△ 2,280
		経常費等補助金	3,599,590	3,753,800	△ 154,210
		付随事業収入	968,270	956,020	12,250
		雑収入	1,213,820	1,074,430	139,390
		繰出金(教育活動)	0	0	0
		分担金	185,850	154,370	31,480
		教育活動収入計	40,395,820	40,576,310	△ 180,490
教育活動外収支	事業活動支出の部	科目	予算	前年度予算	増減
		人件費	21,525,080	21,477,900	47,180
		教育研究経費	16,005,240	16,198,380	△ 193,140
		管理経費	1,960,580	1,792,890	167,690
		徴収不能額等	15,680	19,200	△ 3,520
		繰入金(教育活動)	0	0	0
		教育活動支出計	39,506,580	39,488,370	18,210
		教育活動収支差額	889,240	1,087,940	△ 198,700
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	予算	前年度予算	増減
		受取利息・配当金	221,410	159,710	61,700
		その他の教育活動外収入	440	440	0
		繰出金(その他)	4,570	5,600	△ 1,030
		教育活動外収入計	226,420	165,750	60,670
教育活動外収支	事業活動支出の部	科目	予算	前年度予算	増減
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		繰入金(その他)	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額	226,420	165,750	60,670
		経常収支差額	1,115,660	1,253,690	△ 138,030

特別収支	事業活動収入の部	科目	予算	前年度予算	増減
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	200,000	240,000	△ 40,000
		繰出金(施設設備)	220,000	350,000	△ 130,000
		特別収入計	420,000	590,000	△ 170,000
特別収支	事業活動支出の部	科目	予算	前年度予算	増減
		資産処分差額	168,610	0	168,610
		その他の特別支出	0	0	0
		繰入金(施設設備)	0	0	0
		特別支出計	168,610	0	168,610
		特別収支差額	251,390	590,000	△ 338,610
		予備費	250,000	260,000	△ 10,000
		基本金組入前当年度収支差額	1,117,050	1,583,690	△ 466,640
		基本金組入額合計	△ 2,169,600	△ 2,104,200	△ 65,400
		当年度収支差額	△ 1,052,550	△ 520,510	△ 532,040
		支出準備金取崩額	430,900	760,500	△ 329,600
		支出準備金繰入額	△ 620,970	△ 563,450	△ 57,520
		基本金取崩額	594,890	346,690	248,200
		調整後当年度収支差額	△ 647,730	23,230	△ 670,960
		前年度繰越収支差額	△ 27,930,930	△ 30,183,700	2,252,770
		翌年度繰越収支差額	△ 28,578,660	△ 30,160,470	1,581,810

(参考)

事業活動収入計	41,042,240	41,332,060	△ 289,820
事業活動支出計	39,925,190	39,748,370	176,820

2022年度大学決算は、2023年5月11日開催の大学予算委員会及び大学評議会、5月27日開催の法人理事会で承認されました。

2022年度は、施設設備整備について、今出川校地においては、新図書館改築等工事及び早急に対応する必要がある各建物の耐震化対策の一環としての寧静館及び新創館の改築工事を実施しました。また、京田辺校地においては、トイレ改修工事や体育施設整備を実施し、学生生活のアメニティ向上を図りました。

教学面では、教室のマルチメディア環境整備、授業動画配信のためのストリーミングメディアシステムのリブレース、インフラ系情報システムのリブレース等による情報環境の充実により、対面授業とネット配信授業それぞれの利点を学生が最大限享受できる環境の整備を重点的に進めました。

2018年度から進めている「ALL DOSHISHA教育推進プログラム」では、学部及び研究科が提案する質の高い教育プログラムから得られた様々な教育効果を改めて分析・共有し、本学の教育研究力の向上に役立て、次代の人物を養成するプログラムの新たな構築を進めています。また、科学技術が高度に発達した現代社会において、文系理系を問わず全学生に必要な教養教育として、「同志社データサイエンス・AI教育プログラム(DDASH)」を開始しました。さらに、これまでの英語教育の伝統をさらに発展させ、習熟度別クラス編成の拡充、少人数クラス体制など、多様化する学生のニーズにフレキシブルに対応し、自律した外国語学習者を育てるため、外国語教育科目(英語)のカリキュラムを刷新しました。

研究面では、産官学連携を基軸にしたオープンイノベーションによる教育、研究及び研究成果の社会実装の推進を目的として設置した「カーボンリサイクル教育研究プラットフォーム」の事業推進に向け、同志社大学カーボンリサイクル技術フォーラムを発足させ、参加企業と社会実装に向けた情報交換、技術検討を開始しました。また、All Doshisha Research Model 2025「『諸君ヨ、一人ハ大切ナリ』同志社大学SDGs研究」を立ち上げ、SDGs 達成のための研究課題を支援することにより、SDGs に取り組む「同志社」を国内外に発信するプロジェクトを開始しました。

学生支援面では、障がい学生に対する修学支援として、音声リアルタイムに表示するシステムを両校地のスチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室およびラーニング・コモンズに設置し、情報保障の整備に係る据置型音声通訳システムに関する実証実験を実施しました。また、学生生活全般に対応するAIによるチャットボット相談ページを開設し、カウンセリング体制の充実を図る取り組みを実施しました。

I. 教育活動収支

学生生徒等納付金は332億円で、事業活動収入に占める割合は約78%と大きな比重を占めています。

手数料は18億円で入学検定料が主なものです。

寄付金は5億円で、同志社大学2025 ALL DOSHISHA募金、研究助成への奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金を受入れました。

経常費等補助金は37億円で、国庫補助金が主なものです。この大部分を占めるのが私立大学等経常費補助金で、一般補助22億円、特別補助3億円を受入れた他、授業料等減免費交付金として11億円を受入れています。その他の国庫補助金では、博士後期課程学生による挑戦的・融合的な研究を支援し、優秀な博士人材の育成、能力開発を目的とした次世代研究者挑戦的研究プログラム助成金などを受入れました。

付随事業収入は10億円で、企業からの共同研究費・受託研究費などの受託事業収入、学生寮の寮費などの補助活動収入が主なものです。

雑収入は11億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入や施設設備利用料収入が主なものです。

繰出金は、法人内各学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は2億円で、法人業務に係る法人内各学校の負担分です。

教育活動収入計は415億円で、予算に対して9億円の増額となりました。

人件費は214億円で、事業活動収入に対して約50%となりました。

教育研究経費は163億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。

管理経費は19億円で、大学の維持管理に要した経費です。

その他の支出を加えた**教育活動支出計**は397億円となり、予算に対して2億円の増加となりました。

学校法人の本業である教育研究事業の収支である、**教育活動収支**は、18億円の収入超過です。

そのほか、「同志社大学ビジョン2025」を推進すべく、「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」を継続して実施しました。この募金は、ビジョンに掲げる事業推進をはじめ、奨学事業、課外活動支援、施設設備整備等幅広い事業を対象としており、本学に関わる全てのステークホルダーに本学の教育・研究活動のさらなる充実・発展に向けての支援をお願いするもので、2025年末まで継続的に実施する予定です。

以上の通り、2022年度もこれまで同様、教育、研究、学生支援、施設設備整備の各方面に亘り、必要となる財政的支援を重点的かつ効果的に行いました。収入面では、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、付随事業収入の増収により、予算よりも大幅な増収となり、支出面においては、電気料金及びガス料金の著しい高騰等により予算と比較してやや増加しました。

以下、事業活動収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

用語解説

■ 事業活動収支計算書

学校法人会計基準において学校法人に作成が求められている計算書類の一つで、当該年度の事業活動における収入と支出の内容とその均衡状況を表すものです。

■ 事業活動収入

事業活動収支計算書の教育活動収支・教育活動外収支・特別収支の収入の部を合計したものです。当該年度の収入のうち、学校法人の負債とならない収入をいいます。したがって借入金、前受金、預り金などは含まれません。

■ 事業活動支出

事業活動収支計算書の教育活動収支・教育活動外収支・特別収支の支出の部と予備費を合計したものです。人件費、物件費、減価償却額など当該年度に消費する支出です。

■ 基本金

基本金は、学校法人の活動計画に基づき必要となる資産を事業活動収入から組入れて継続的に保持するもので、自己資金により取得した固定資産の価額に対応する第1号基本金、将来取得する固定資産に充てるための第2号基本金、運用果実により教育研究活動を進めるための基金である第3号基本金、恒常的に保持すべき運転資金である第4号基本金から成ります。事業活動収支計算書では、当年度に組入れる額が「基本金組入額合計」で表示されています。

II. 教育活動外収支

教育活動外収支は、主に財務活動の収支区分で、受取利息・配当金の計上等により、3億円の収入超過です。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた**経常収支**は21億円の収入超過です。

III. 特別収支

特別収支は、特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な事業活動収入及び事業活動支出で、7億円の収入超過です。施設設備に係る寄付金及び補助金、現物寄付、法人内資金調達に係る貸付額及び返済額、本年度除却の固定資産に係る資産処分差額並びに過年度修正額が該当します。

IV. 基本金組入額および収支差額

基本金組入前当年度収支差額は27億円の収入超過となります。

基本金組入額は学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために組み入れる額で、20億円を組み入れます。今後の資産取得に向けての第2号基本金の組入れが主なものです。

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を控除した当年度収支差額は8億円の収入超過となります。

支出準備金取崩額は11億円で、使途が特定された準備金の取崩額などです。

支出準備金繰入額は14億円で、使途特定寄付金、研究費および大規模建設事業などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

基本金取崩額は18億円で、固定資産取得価額を上回る除却分です。

当年度収支差額に支出準備金取崩、繰入、基本金取崩額を加えた**調整後当年度収支差額**は、23億円の収入超過となります。

なお、**累積収支差額**として280億円の支出超過額を翌年度に繰り越すこととなります。



2023 July

「ゼミで学ぶ 魅力を語る」

幅広い領域の専攻から数多くのゼミがある本学。

それぞれ、どんなことを学んでいるのか。

ゼミ教員が、個性豊かなゼミの魅力を語ります。

大学で行うペプチド創薬

私のゼミでは、西川喜代孝教授と共にペプチド創薬研究を行っています。多量体構造を形成して機能するタンパク質が標的分子と結合する際、多価対多価の相互作用をする非常に高い親和性で両者が結合することがあります。このような相互作用は、様々な生命現象や疾患の発症に関与しており、創薬ターゲットとして注目されています。私達は、この相互作用を阻害する分子を同定する技術、多価型ペプチドライブラリー法を用いて、腸管出血性大腸菌感染症や、インフルエンザ等の疾患の治療に役立つ薬剤の開発を行っています。

研究室に配属されるとまず、個別のテーマが決まるので、学生は周辺の勉強を始めます。同時に実験の基本操作を一つずつ習得します。教員と打ち合わせを重ねながら研究を進めますが、教員や先輩との議論を通じて自分で考え主体的に研究に取り組むようになること

ゼミ生の声(アンケート結果)

とを重視しています。思うようにいかない時期はつらいかもしれませんが、自分の研究を隅々まで大事にし、周囲と相談しながら試行錯誤するうちに知識や技術は確実に向上していくので、そのうちヤッターと思うような結果に出会えると思います。大学での研究は学生の成長と共に進むので、効率的ではないこともありますが、個々の努力によって得られた成果は、将来の医薬品開発や治療法に必ず役立つと信じています。

この研究室の魅力は？

「コアタイムがあるためいつも全員いて議論や質問がしやすい」「研究仲間がいるのでやる気がでる」



生命医科学部
助教

たかはし みほ
高橋 美帆 ゼミ

Miho Takahashi

ゼミは学生が創るもの

法学部法律学科では、事例問題や判例をもとに議論をしているゼミが多いのではないかと思います。私のゼミでも、二年次演習では、民法の基本的論点を含む事例問題を検討しています。学生には、ゼミでの議論を通じて、自ら調査し、考え、発言し、他人の意見に耳を傾けて、議論を組み立てる能力を身につけてほしいと思っています。

法解釈が実際の事件でどのように生かされるのを感じてもらうことにあるのですが、学生の主体的な取り組みを促すという点でも意義があると感じています。

ゼミ生の声(アンケート結果)

荻野ゼミの特色は？

「好奇心をもつて取り組む姿勢を尊重し、『何故こうなるのか』の問いをことごとく追求できるゼミ」「個々人が主体的に活動し、活発な議論を通して、自らの弱点を共有することで、より高みを目指すことができるゼミ」「ゼミ生のレベルが高く、設問に対して深い理解が得られるゼミ」「自主性を尊重してもらえて、議論や発表を通して民法の面白さ、奥深さに気づけるゼミ」「法曹志望者や大学院進学希望者が多く、それぞれの目標に向かってお互いに高めあえるゼミ」など



法学部
教授

おぎの なお
荻野 奈緒 ゼミ

Nao Ogino

Seminars

learning objects of

「障害」を考える 障害者スポーツにおける



スポーツ健康科学部
助教

かわにし まさひろ
河西 正博 ゼミ

Masahiro Kawanishi

私のゼミでは「障害者スポーツにおける『障害』とは何か」ということを追求していきます。「障害」と言っても千差万別であり、障害者のスポーツ参加時のバリアや障害当事者の障害観、障害者スポーツへの理解や認知度等、様々な観点がありませんが、それぞれにテーマを設定して、スポーツと障害の関係性を探求していきます。具体的な取り組みとして、自分なりの問題関心を醸成してもらうために、座学だけではなくポッチャや車いすバスケットボールの体験、特別支援学校での運動指導等の実践により、障害当事者と関わり「生きた知識」を学ぶことで、個々の検討課題を明確化してもらいたいと考えています。

ゼミの中には全国レベルの競技

歴をもつ学生がいますが、一歩地域に出ると、スポーツが苦手である、嫌いである、やりたくてもできない等、様々な困難を抱えた人々が存在し、これまでの自分たちの知識や経験のみでは対応しきれない場面に遭遇します。障害者スポーツを学ぶ意義は、このような場面において、多様なニーズを抱えた人々に向き合う時に見いだされるのではないのでしょうか。学生たちには、障害者スポーツを通じて、スポーツの多様な価値観を学び、多様な人々とスポーツによるコミュニケーションを図ることで、将来、障害の有無に関わらず多くの人々に体育やスポーツの楽しさを伝えられる存在になってもらいたいと願っています。

探究の共同体



文学部
助教

おがわ たける
小川 雄 ゼミ

Takeru Ogawa

小川ゼミでは、主につぎの二つの領域を探索しています。すなわち、人間のあり方を関係的に捉える倫理思想と、コミュニケーションを論理的な観点から究明する哲学思想です。現在、受講生と教員が取り組んでいるのは、「ケアの観点からの自律の捉え直し」とか「道徳性と共感」とか「医療における物語の役割」といったテーマです。

小川ゼミの運営方針は、受講生と教員が上記の倫理・哲学思想を実践することです。すなわち、「興味・関心の異なる人たちが互いを認めあいながら意見を交わし、そのなかで、それぞれの興味・関心を深めていくこと」です。そのために、演習では、質問や論証の作法をワーク形式で学んだうえで、発表と議論を活発に行っています。こうした活動をとおして、受講生は、論理的な飛躍や隠れた前提などを次第に見つけられるようになります。また、そうした鍛えられた視点からの鋭い意見に出会うことは、変化のきっかけになるでしょう。

哲学科の演習の目的は、第一義的には、もちろん、卒業論文の完成です。しかし、演習での学びの意義は、それに尽きるわけではありません。倫理学と哲学の研究をとおして、異なる考えを持つ人と協働していくための基礎体力をつくってほしいと思います。



INFORMATION

4

2023 July

本学教員の 執筆図書紹介

(価格は税込み)

動物という隣人

鬼頭葉子 著 新教出版社 5,995円

抄物の言語と資料

山本佐和子 著 くろしお出版 7,480円

多様化するアメリカと 合衆国最高裁判所

檜垣伸次 他著 成文堂 6,050円

日本政治の第一歩 新版

岡野八代 他著 有斐閣 2,200円

沖縄の引き延ばされた占領

新井京 著 有斐閣 7,700円

情報倫理 改訂3版

原田隆史 佐藤翔 他著
技術評論社 1,628円

実務と理論の架橋

松原久利 川崎友巳 十河太朗
洲見光男 他著 成文堂 26,400円

海のグローバル・サーキュレーション

肥後本芳男 他編著
関西学院大学出版会 4,950円

現代日本の紛争過程と 司法政策

木下麻奈子 他著
東京大学出版会 16,500円

ソーシャルワーク論Ⅰ 基盤と専門職

小野セレスタ摩耶 他著
法律文化社 2,860円

考えを深めるための教育課程

奥野浩之 他編著 本多千明 他著
ミネルヴァ書房 2,640円

これから学ぶスポーツ心理学 三訂版

石倉忠夫 他著 大修館書店 2,200円

パラリーガルの実務感覚から学ぶ 民事訴訟・執行・保全

川嶋四郎 監修 日本評論社 3,190円

内藤湖南研究の最前線

村田雄二郎 銭鷗 他著
関西大学出版部 5,170円

核共有の現実

倉科一希 他著 信山社出版 4,620円

知の統合は可能か

渡辺政隆 他著
時事通信出版局 3,080円

NATO(北大西洋条約機構)を 知るための71章

穂山洋子 月村太郎 他著
明石書店 2,200円

二つの大戦と帝国主義Ⅱ

石井香江 他著 岩波書店 3,520円

ジョージ・ミューラーと キリスト教社会福祉の源泉

木原活信 著 教文館 5,060円

教師の相互行為能力は記述可能か

石野未架 著 多賀出版 4,400円

SDGs ネクスト 「深山大沢」プロジェクト

小原克博 樹太一 野口範子 八木匡
飯塚まり 和田喜彦 林田明 稲岡恭二
金津和美 後藤琢也 石川正道 他著
All Doshisha Research Model 2025
「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」
同志社大学SDGs研究「プロジェクト
(2022年度)「ネクスト「深山大沢」
プロジェクトー良心の概念拡張と
新たな実践」

応用基礎としての データサイエンス

宿久洋 他著 講談社 2,860円

知財とパブリック・ドメイン 第3巻 不正競争防止法・商標法篇

山根崇邦 他著 勁草書房 4,950円

日本の政治過程 選挙・政党・利益団体研究編

森裕城 著 木鐸社 3,300円

アメリカ研究の現在地

肥後本芳男 他編著 倉科一希 他著
彩流社 3,850円

ロボット工学ハンドブック 第3版

佐藤健哉 他著 コロナ社 41,800円

科学コミュニケーション論の展開

渡辺政隆 他著
東京大学出版会 3,960円

『拳白集』評釈 和文篇

大山和哉 他編著 和泉書院 16,500円

伝送線路論

出口博之 著 数理工学社 2,365円

社会福祉学習双書 2023 第8巻 地域福祉と包括的支援体制

永田祐 野村裕美 他著
全国社会福祉協議会 3,080円

社会福祉学習双書 2023 第9巻 ソーシャルワークの基盤と専門職

空閑浩人 他編著
全国社会福祉協議会 2,420円

社会福祉学習双書 2023 第10巻 ソーシャルワークの理論と方法

空閑浩人 他編
全国社会福祉協議会 2,860円

激動する世界経済と 中小企業の新動態

関智宏 他著 御茶の水書房 4,620円

災害と復興の社会学 増補版

立木茂雄 著 萌書房 3,850円

四月はいちばん残酷な月

田口哲也 圓月勝博 他著
水声社 6,600円

触媒総合事典

竹中壮 他著 朝倉書店 14,300円

不倫

迫田さやか 他著 中央公論新社 902円

日本の対中大戦略

兼原信克 著 PHP研究所 1,078円

命か経済か

野田遊 他著 勁草書房 3,520円

フォローアップ行動論

松山一紀 著 中央経済社 3,080円

日本の経済外交

大矢根聡 編 大矢根聡 他著
勁草書房 5,280円

働く社会の変容と生活保障の法

土田道夫 他著 旬報社 7,700円

ライフサイクルと信仰の成長

越川弘英 他訳
日本キリスト教団出版局 3,080円

地理学事典

内藤正典 二村太郎 他著
丸善出版 26,400円

日本近代銀行制度の成立史

鹿野嘉昭 著
東洋経済新報社 5,500円

モノ・構造・社会の考古学

水ノ江和同 他著
今福利恵博士追悼論文集刊行委員会

ベンサム「公開性」の法哲学

戒能通弘 訳
慶應義塾大学出版会 9,240円

判例講義 民法Ⅱ 債権 新訂第3版

荻野奈緒 他著 勁草書房 3,520円

ウクライナ戦争をめぐる

国際法と国際政治経済
浅田正彦 他編著 東信堂 2,860円

社会運動のグローバルな拡散

関口寛 他著 論創社 3,850円

スポーツにおける真の指導力

川井圭司 他著
エイデル研究所 2,200円

同志社精神を考えるために

川嶋四郎 木原活信 小原克博 林田明
深谷格 和田喜彦 他著
同志社大学良心学研究センター

国際関係史の技法

村田晃嗣 他訳
ミネルヴァ書房 3,520円

児童心理学・ 発達科学ハンドブック 第2巻 認知過程

嶋田容子 他訳
福村出版 220,000円

アジアのかたちの完成

村田雄二郎 他著 集英社 3,960円

アメリカ日本人移民 キリスト教と人種主義

吉田亮 著 教文館 5,940円

徹底討論! 問われる宗教と“カルト”

小原克博 他著 NHK出版 913円

災害・デジタル化・ 格差は正と税制のあり方

倉見智亮 他著
日本租税理論学会 3,080円

旅するナラティブ

大沼由布 他編著 知泉書館 4,950円

複数国籍

南川文里 他著 明石書店 3,520円

テキストデータマネジメント

波多野賢治 編 波多野賢治 他著
岩波書店 3,960円

SDGsと地域社会

峯陽一 他編著 明石書店 3,520円

同志社人 訪問

Interview
with
Doshisha
People

今回、メディア学科3年次生の堀琴葉さんが話を伺ったのは、文学部英文学科の卒業生であり、読売テレビ「かんさい情報ネットten」のメインキャスターを務める中谷しのぶさんです。柔軟に司会役をこなし、最前線へと取材に赴き、さまざまなニュースを発信する報道番組の「顔」が持つ責任とは。伝えることへの思いとは。

ニュースの内容だけでなく 捉え方を、一例を挙げて提示する

堀…私はテレビ業界を志望しているので、今日のインタビューをとても楽しみにしていました！

中谷…堀さんもアナウンサーを目指しているんですか？

堀…アナウンス職も視野に入れつつ、番組制作に関わる仕事

がしたいと思っています。中谷さんは、何社くらいテレビ局の採用試験を受けられましたか？

中谷…読売テレビしか受けていないんです。そもそも私がアナウンサーを目指したきっかけは、高校時代に読売テレビの報道番組でメインMCだった横須賀ゆきのさんを見て、「アナウンサーって素敵な仕事だな」と思ったことなんです。だから、読売テレビのアナウンサーを目指したい、と思って。

堀…読売テレビに入社されて12年ということですが、これまで一番印象深い出来事は何ですか？

中谷…山ほどあつて、どれをあげたらいいのかわからない(笑)。でもやっぱり一番の転機は、2017年に「かんさい情報ネットten」のメインキャスターに就任したことですね。記者をはじめ携わるみんなが人生を懸けて仕事をしている報道番組を背負う覚悟が問われました。また、「ten」で女性のメイン



Interviewer

社会学部メディア学科 3年次生

ほり ことは
堀 琴葉さん

幼い頃からドラマやバラエティ番組を見ることが好きで、テレビ業界への就職を志す。大学進学後は、学生国際協力団体に所属し、また、同志社大学入学広報アンバサダーとしても活動。今年3月には成績優秀者として文学部・社会学部の父母会より表彰される。

今回の同志社人

読売テレビアナウンサー

なかたに
中谷 しのぶさん

1988年、兵庫県生まれ。同志社香里高等学校を経て同志社大学文学部英文学科卒業後、読売テレビに入社。アナウンサーとして数々の報道番組やバラエティ番組を担当し、2017年「かんさい情報ネットten」、21年「ウェークアップ」のメインキャスターに就任。

キャスターは私が初めてだったので、会社としても新しい挑戦でした。

堀…それまでも「ten」ではサブキャスターを担当されていましたが、どんな変化があったのでしょうか？

中谷…一番大きいのはニュースの伝え方です。サブキャスターは基本的に、原稿を読む、というニュースの伝え方をします。でもメインキャスターはそれだけではなくて、ニュースについて見て聞いて感じたことを、自分なりのコメントに集約して締める役目も担っているんです。責任の大きさが変わったと感じますね。

堀…私も入学広報アンバサダーとして同志社大学のことを伝える活動をしています。生放送でニュースに自分の言葉を添えて伝えるなんて…想像できないプレッシャーです。

中谷…取材させて頂いた方やパネリストの方、解説委員、記者達…全員の思いを受けて紡ぎ出さないとけない言葉です。難しい分、そこに少しずつ自分の「カラー」がにじみ出る気がしています。

堀…中谷さんの「カラー」ですか。

中谷…もちろん勉強して知識を身に付けることも大切なんです。私は、一人の人間として感じる素朴な疑問も大事にするようにしています。その上で皆さんからお話をお聞きして、一例としての視点・視座を視聴者の皆さんに提示する、というのが私の伝え方です。

堀…先ほど、「ten」では初の女性メインキャスターだというお話もありました。未だに男性従事者の割合が高いといわれるテレビ業界ですが、女性だからこそ伝えられることもあるのでしょうか？

中谷…今年、女性目線の防災に関する企画を提案して、取材して放送にも至ったんですが…防災担当の部署に女性が少ない自治体が、全国でまだ6割もあるんですね。男女共同参画の意識は浸透した、といわれる一方で、実態が伴っていないことをすごく実感しました。性別の垣根はないと思いますが、そういった課題も女性が発信することにより伝わることもあると思うんです。これから



入社以来、報道番組を中心に第一線で活躍。さまざまな現場に足を運び、取材、中継に臨み女性キャスターとしてのキャリアを築きながら、番組を支える「顔」として、日々新鮮なニュースを届けている。

も女性ならではの悩みや表に出ない葛藤に寄り添いながら、取材・発信をしていきたいと考えています。

堀…とても興味深いです。私も、自分の目線を大事にして人や社会を変えるテレビ番組を作りたいと感じました。

失敗に自ら気づき、糧にする 良いルーティーンを構築する

堀…テレビ局での裏話などもお聞きしたいのですが…失敗談を聞いてもいいですか？

中谷…失敗は、いっぱいありますよね…(笑)。今でも夢に見るんですけど、サブキャスター時代、ニュースを読んでいたら次の原稿がない、ということがありました。どこかに紛れてしまったのか、4枚目がない。文章の途中でページをめくったら、もう次のニュースで「あれ？」みたいな(笑)。

堀…それは生放送ですか？





中谷..「ten」の生放送です。フロアのスタッフが持っていた原稿を差し込んでくれて、何とか繋ぎましたね。あと、パネリストの方から発言を引き出して、時にはわかりやすく言い換えたり、フォローしたりするのもメインキャスターの役割なんです。が、うまくいかなかったなあと反省したり。でもモヤモヤするだけで終わらせずに毎回放送を見返して、言葉一つ、接続詞一つでも、より伝わる表現を考えて、次に生かすルーティーンを作るようにしています。

堀..勝手ながら、難なくお仕事をこなしているイメージがありました。努力の積み重ねがあつてその中谷さんなんですね。
中谷..本当に、色んな反省の上に12年があるなあ、と思います。

何かに熱中する学生時代を きつとそれがあなたの強みになる

中谷..堀さんは、この冬から採用試験を受け始めるんですか？
堀..はい。中谷さんは採用試験に備えてどんな準備をされましたか？

中谷..それが、ほとんどしていません…。学生時代は、とにかく英語とピアノ漬けの毎日でした。英語は幼少期に3年間ハワイに住んでいて、その時に培ったものをさらに生かしたいと思って英文学科で学んで。ピアノはコンクールに挑戦したり、ピアノサークルにも入って今出川キャンパスの寒梅館でコンサートを開いたり。あそこ、レトロな雰囲気ですごく素敵ですね。

堀..私、新町キャンパスなので知りませんでした。今度行ってみます！

中谷..あれ？ でも寒梅館って、新町キャンパスのすぐ手前

だよ？ カフェが入っているの。

堀..ああ、アマーク！ 行ったことあります！

中谷..あの建物が、寒梅館（笑）。

堀..ああ…！
（同笑）

中谷..だから採用試験に向けては、読売テレビのインターンシップに参加した後、3ヶ月間



アナウンススクールに通ったくらいですね。でも身に付けた英語力は、エントリーシートや面接で自分のPRポイントになりました。それに入社後も海外取材で力が生かされているので、大学で英語をがんばって良かったな、と思います。

堀..今のお話を聞いて、就職先で生かしたい自分の強みとは何か、考えさせられました。

中谷..もう、ぜひ学生生活を謳歌してください。学生ならではの時間の使い方とか、私も行きたい海外に時間をかけて行ったりしましたし、サークル活動でも何でもいい。一つ極めて、自分で自信を持つて「これを頑張った！」って言えるものを作れば、それが自然に強みになっていくと思います。採用試験、がんばってくださいね！

堀..はい！ 今日ありがとうございます。

取材を終えて

Interviewer

堀 琴葉さん



「かんさい情報ネットten」にかける思いを直接お聞きし、メインキャスターを務める上での覚悟の大きさを感じました。伝わりやすく言葉を言い換えたり、誤解が生まれないように言葉を扱ったりすることは、非常に難しいと思います。画面越しでは気付けなかったテレビの仕事の大変さに気付き、また影響力の大きさを再認識する貴重な機会になりました。中谷さんのように、私も夢を叶えたいです。

My Purpose 挑戦する人

もりぐち すみただ
森口 澄士さん
商学部商学科
4年次生

京都府出身。高橋大輔さんの活躍を見て、小学3年生でフィギュアスケートを開始。高さを活かした豪快なジャンプが得意で、体の強さはペアでも発揮される。現在の目標はペアでの五輪出場。

インタビュー動画も
チェック



まだ見ぬ景色を求め

誰もやらない挑戦を



あくなき探究心で 二刀流の道を選択。 困難を喜びの糧に

極めて異例の挑戦だ。フィギュアスケート部の森口澄士さんは、

シングルとペアの二刀流で自らの表現を突き詰める。個としての高い芸術性が求められるシングル、カップルを組む女子選手を持ち上げるに足る強靱なフィジカルが必要なペアとは、競技の性格が大きく異なる。それゆえ、能力のあ

る選手でもどちらか一本に注力するのがフィギュア界の常識。もちろん、セオリー通りの選択を下したところで厳しい鍛錬を避けられないわけではない。そこへ学業やアルバイトも加えれば「四刀流」との形容も可能だが、なぜ森口さん

はあえて険しい道を歩むのか。「大きいリンクをぜいたくに使えるシングル、2人で滑る難しさを乗り越えて唯一無二の世界観を築き上げるペア、それぞれにしかない魅力がある。両方を知って初めてできる表現、相乗効果があるとと思うんです」。そう語る目は、清々しいまでの充実感に満ちている。

昨年開催された日本選手権では、村上遙奈選手とのペアで念願の優勝。当初の目標通りにノミで演技を終えると、人目もはばからずに涙した。「本番直前は自信と不安と緊張が入り混じっていました。でも、先生や家族が『あれだけ練習したのだから絶対できる』と。支えてくれた人にも努力が無駄ではなかったことを証明できて、自然と涙があふれてきました」。二刀流のどちらもおそろそかにせず、一途に努力を重ねた先に見えた景色は、世界のトップ選手をしても決して見られないものだったはずだ。

地元愛も強い。同志社大学への入学を決めたのは、かねて交流のあったOBの笹原景一朗選手、友

野一希選手からの勧誘が直接の理由だが、生まれ育った地で小中高、そして大学と学び続けられることも大きかったのだという。商学部ではスケーターとしての選手寿命を考え、セカンドキャリアについて思索を深める毎日。自身を客観的にとらえる視点を持つ森口さんだが、目下の夢を問うとやはりアスリートらしく「2026年のミラノ・コルティナダンペッツォ冬季五輪への出場」という答えが返ってきた。そこでの成績こそが、自らを育ててくれた京都という街への何よりの恩返しになる。1日たりとも無駄にできない研鑽の日々は、まだまだ続くことになりそうだ。



↑ 憧れの高橋大輔さん(左)と記念撮影。その背中を追いかけ、森口さんは成長してきた